

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	中村 佳子
主な担当科目	オペラ演習Ⅰ②, 歌曲特別演習①(金5), 歌曲特別演習①(金6), 歌曲特別演習②(水5), 歌曲特別演習②(水6), 身体表現法②, 聴音・視唱ソルフェージュ②_A, 聴音・視唱ソルフェージュ②_B, 声楽
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	コロナの制限がなくなった2023年に続き、学生の自主性を尊重し、知識のインプットではなくアウトプットに焦点を当てた授業を行いたい。ディスカッションや学び合いを通して他者と共感することで、学生の積極性と学習意欲を向上させたい。特に後期に実施する「ラ・ボエーム」のマスタークラスは、多角的な物の見方、突発的な出来事への対応力、協調性、行動力、創造性など、学生たちがオペラを通して最高の学びを得られるよう、出来る限りの準備をして行きたいと思う。
2024年の教育に関する自己評価	演習系の授業では選曲を学生に任せ、調べて発表するという機会を多くつくった。学生たちが自主的に行ったアウトリーチ活動を積極的にサポートした。マスタークラスはほぼ全部の授業に立会い自身も裏方として成果発表に参加した。学生側の立ち位置で授業を見ることができ、多くの学びがあった。集団の中での今の学生たちの性質、人を傷つけないコミュニケーション、繊細な感性なども知ることができたのは収穫であった。
2024年のFD活動に関する自己評価	新学長、副理事長、新学部長のご講話を拝聴し、大学を取り巻く日本の状況、大学に求められるもの、これからの大学教育等、新たな学びが多くあったと感じている。留学生の増加、新学部の開設、セメスター制の導入など大学は大きな転換点を迎えており自身の中で全てがアップデートされた年であった。反対に部会・分科会のFDでは、日々学生に対して先生方から教育の根幹にある愛情や信頼関係など、変わらない姿勢も多く学んだと思う。
授業改善のために取り入れた研修内容	大学院FDでの講和を参考に、学生と研究計画について話す時間を多くとっている。学生自身は自分の学修を見直し不足を知ることができると同時に、教員はその学生自身を深く知ることができ、ともに研究する信頼関係が生まれていると感じる。伝える努力と聞く努力を惜しまず、時間をかけて授業をすることを心がけている。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:424 教員名:中村 佳子

1)アンケート結果に対する所見

「声楽実技」は回答率が半数ではあるが、それぞれが目標を高く持ちコツコツと積み上げる努力をしてくれたと感じている。Q1, Q2, Q6, Q10 の評価が100%であることから、こちらが考える意図は伝わっており、コミュニケーションのあるレッスンは展開できたと思う。

「オペラ演習Ⅰ②」は非常に意欲的なクラスであり、毎回活気のある有意義な授業となった。Q9「この授業を受けて高めることができた能力」の選択肢で、専門技能・知識に加え、自己表現力、コミュニケーション能力、実践力も高いパーセンテージを得たこと、Q10 が100%であったことは、この科目の目標である心身の解放や自由な発想と表現力を養うことに通じており、嬉しい結果である。「聴音・視唱ソルフェージュ②」は聴音担当の先生と2名で運用しているが、一定の評価と成果が出ていることを実感する回答であった。

2)要望への対応・改善方策

「声楽実技」ではこれまで同様個々の学生を注視し、専門技術だけでなく人間としての成長を含めたサポートをしていきたいと思う。進学や就職、留学などの進路や将来の展望等に耳を傾けて、それぞれに必要なレッスンを創造する。「オペラ演習Ⅰ②」は更に学生の自主性と創造性を引き出し、オペラの楽しさを存分に味わえる授業展開に取り組む。シラバスにある学修内容に添った上でソロの歌唱部分を増やすなど、学生のやる気を制限しない柔軟なやり方で毎週の授業を生きた授業にしたいと思う。「聴音・視唱ソルフェージュ②」はセメスター制導入に伴い新たな科目となるが、ソルフェージュ担当者として、個々の学生が自身の能力の向上が感じられるような、積み上げのできる授業を構築していくことが重要である。

3)今後の課題

セメスター制の導入により、半期14回で一定の成果を出せるシラバスの検討が重要である。細かく達成度を設定して、履修者が理解し易く、目標を立て易い学びを組み立てることで、様々なレベルの学生が達成感を感じながらステップアップできることが理想的である。またオペラ演習のような複数メンバーでの創造的体験は、コミュニケーション能力や協調性を身に付ける最高の機会であろう。多様な学生に柔軟に対応できる柔軟な思考力をもって授業に取り組みたい。

以 上